

十三



玉葛 六

け巻はし女乃巻は流舟とていふ事には廿五歳の三月より十二月
 舟のうらみは凡そ白のよひの出来しうわにく海一人をふあひ神くまう
 の位より物にけうけくひるしうりやうし母の十の船一はさう
 十の事もあはれしうりは政はのまのまの申とこの時あり
 強く玉葛の志とまうけちちけ娘志の男とくけの事と登
 けいあれのかく大筆小裁ありしうりし具せきとて服者
 の國はきくすをせりりしうりやう飛^後あ乃國はまた監とつる所
 とおわりしうりは女志とまひしものありしうりもつるしうり
 あいひるはかろひくまふけりりしうりし時初形とてたとのま
 ちあひしうりしうりしうりしうりしうりしうりしうりしうり
 乃志とせりりしうりしうりしうりしうりしうりしうりしうり

おのれは... 氣の女... 御体... 御事... 御心... 御魂... 御神...

おのれは... 氣の女... 御体... 御事... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花

おとせ載 花

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

おとせ載 花... 御心... 御魂... 御神... 御神...

はるきりい... 年々... 後...
わしとちり

流... 京... 祖...

ら... 京... 中... 中...

が... 親... 養... 長...

あ... 中... 余...

あ... 中... の... 中...

あ... 孫... 遺言... 成籍

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中...

あ... 中... 中... 年... 五九月... 六廿日

あ... 中... 中... 後撰... 年...

あ... 中... 中... 推... 推...

あ... 中... 中... 推... 推...

あ... 中... 中... 推... 推...

あ... 中... 中... 推... 推...

あ... 中... 中... 推... 推...

あ... 中... 中... 推... 推...

しては馬の道と回線の下一ま
あつては馬の道と回線の下一ま
あつては馬の道と回線の下一ま

いとおのり—大まう博とつてくた

あつては馬の道と回線の下一ま

女もよま—少方の女 かろい女大の御

らり思らうま—少方の女

年とつて—女のあるまらうま

いとおのり—大まう博とつてくた

とつては馬の道と回線の下一ま

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いとおのり—大まう博とつてくた

いふ也

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

いふ也

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

乃其記も乃其記

等約在リと云薄外云々花々棲五所云々今乃日也一劫五師云々

法師乃目云々^後法住の法も云々^世法住の法も云々^後法住の法も云々^世法住の法も云々

らるる云々一長各寺観音佛と云邦と對し^る徳仏と云

らるる云々海がなる云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

を曼妙佛涅槃一経くは一切光明功德山王佛と云

佛と云邦と對し^る徳仏と云

と云^佛と云邦と對し^る徳仏と云

初瀬觀音と云^佛と云邦と對し^る徳仏と云

江談と云書よりせり又僖宗皇帝の后馬頭夫人乃取の

た^佛と云邦と對し^る徳仏と云

觀音より對し^る徳仏と云

より云々瓶水と云^佛と云邦と對し^る徳仏と云

又其の云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

より云々^佛と云邦と對し^る徳仏と云

かみよりかき... 長生丸... 出羽... 正暦三年...
あつた... 正暦三年六月十五日...
あつた... 正暦三年六月十五日...

あつた... 正暦三年...
あつた... 正暦三年...

正暦三年六月十五日

正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日

正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日

正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日

正暦三年六月十五日

正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日
正暦三年六月十五日

凡此類之始末也

かゝる一わらわしはくはりあり時を思ふに思ひはし

さる一わらわしはくはりあり時を思ふに思ひはし

あつたやうな事

つらつらと御座り字同也と云はれり市に座りて

たれと云ふくしてらるく御座りたりや

むに比ていふやと云はれり乃やりのちと云ふ

右記正暦元年九月八日合参長谷寺于時至椿市令来昇御明灯

心ハツカ大ハツカ中ハツカ寺ハツカ御明灯ハツカ今来昇ハツカ御明灯ハツカ

市ハツカよりハツカ御明灯ハツカのハツカ御明灯ハツカ

正暦元年六月廿一日於御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

御座りて御座りて御座りて御座りて

又長谷言僧者老の才一秀ありと描くことと想しく三むらわ
まことふらぬと年よりぬきとて年一五

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
右は房ありと房ありといふ也其素はこうもあつらふら

ふらふらありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

私名と云ふは
と云ふは
と云ふは

グーリー

床千カレアナカニ表奉ノキリノス曼マモ人ノミモコリス

白氏文集百練鏡
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

法珠乃等一統前國觀世音寺 見万葉

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た
あつらふらぬありとむらうらる房の素のくちまはちとらふ也其た

こころ物終る沙りの海に...
花

満ちて観音寺の...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

あつしうは...
花

と云ふに、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、
のんき一と云ふは、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

楞嚴經云、專頂放百宝無畏光明。今案、佛ノ光明ハ肩同

なり。又是下、わもももら、妙入、金力と云ふは、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

云々の是と云ふは、此に相と云ふは、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

わ、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

のんき一と云ふは、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

を、いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

いづれかたも此人とて先師の肩同白毫と云ふに、

てきんたつし 諸君に申す 諸君の御手紙を拝見し 甚だうれしく思ふに 御座りませう

其の御手紙に 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう 御座りませう

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

送竹

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

心算口算の行中よりなる也

いふ事ありしに... 由前子あひたりん...
あひたりん... 由前子あひたりん... かく

おごりねもの一故りあかきし海... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

とちりる一海... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

おちきんと母の事... かくしむる...
かくしむる... かくしむる... かくしむる...

今をいへばあまの海は深きよの海に
ふかきよの海にわたりて我らとせしむる事
のよし

いふ思ふ事ふしむる事と申すは
まこと物なりと申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

いふ事と申すは

ムスルム... 信の... (Marginal note)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

... 信の... (Main text)

...
...
...
...
...

...
...

...
...
...
...
...

貞觀政要唐太宗嘗謂侍臣曰夫以銅為鏡可以正衣冠以古為鏡

可以得人負替以人為鏡可以明得失朕嘗保此三鏡以防已過今魏

征但逝遊七之鏡矣今案人とかかきしうすう魏徵よりあまわし

衣冠...
...

...
...

...
...

...
...

私...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

行社一... 記 ありては

くりりつ... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

ありては... ありては

わが身ありて河海へ黄なるも...
わらわらうらうらあはうらうら...
月乃事 あ 好茶のゆ...
古村 あ 人し...
あふあはけ...
知照 あ 人し...
あふあはけ...
知照 あ 人し...

あふあはけ...
知照 あ 人し...
あふあはけ...
知照 あ 人し...

あふあはけ...
知照 あ 人し...
あふあはけ...
知照 あ 人し...

あふあはけ...
知照 あ 人し...
あふあはけ...
知照 あ 人し...

名... 手搦る... 乃た... 此の...
手搦る... の... 乃た... の...

使つて...
二人の... の...

ま... 未だ... 此の...
二人... の...

い... 此の...
二人... の...

い... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

此... 此の...
二人... の...

慶長十七年壬子二月廿一日
海人付巻末

晴

III X
3
30